

肺癌登録合同委員会 第9次事業：
悪性胸膜中皮腫の
前方視的データベース研究の全国登録調査

悪性胸膜中皮腫は胸膜に原発する比較的稀な悪性腫瘍で、その発生には石綿（アスベスト）の曝露が大きく関与しています。我が国のアスベスト消費増加に伴い、悪性胸膜中皮腫による年間患者死亡数は1995年の500人から、2012年には1400人と著明に増加しています。悪性胸膜中皮腫は石綿曝露からの潜伏期間が30-40年と言われており、我が国では2020年から2030年代がピークとなると予測されています。一方、悪性胸膜中皮腫は低頻度の疾患であること、最近まで有効な治療法が存在しなかったこと、予後が極めて不良であることなどから臨床情報に乏しく、全国的な多施設共同研究が必要と考えられます。

近年、国際的に共通の病期の確立の必要性が認識され、International Association for Study of Lung Cancer (世界肺癌学会)と International Mesothelioma Interest Group (国際中皮腫研究会)が中心となって後方視的国際データベース事業が行われ、我が国からも世界で第5番目に多い症例を登録しています。しかし、IASLCデータベースは後ろ向き登録であること、非常に雑多な症例から構成されていることから、悪性胸膜中皮腫治療の真の現状を必ずしも反映していません。したがって、本邦の肺癌登録合同委員会が悪性胸膜中皮腫症例の前向き登録によるデータベース事業を行うことになりました。

日本肺癌学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器内視鏡学会の4学会が合同で運営する肺癌登録合同委員会は、日本の肺癌診療の診療成績を把握するため、定期的に全国の施設に協力を求めて、大規模データベースを構築してきました。肺癌登録合同委員会は、今回、第9次事業として2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日の間に細胞診または組織診にて悪性胸膜中皮腫と診断された16歳以上のすべての患者さん)の前向き登録を開始することになりました。登録症例の解析結果をもとに、最新の悪性胸膜中皮腫の治療成績を把握し、今後の診療に活かしていく予定です。また当事業の症例データベースは世界肺癌学会の国際データベース事業とも共同して、国際対癌連合(Union internationale contre le cancerあるいはThe Union for International Cancer Control、略してUICC)によるTNM分類の改定にも貢献する予定です。

当院は、2017年度に診断された悪性胸膜中皮腫の患者さんの診療情報を肺癌登録合同委員会第9次事業に登録し、全国および国際共同研究に貢献する予定です。研究計画書は、事務局である大阪大学呼吸器外科学のホームページにも掲載されていますので、必要な場合はご確認ください。

個人情報の管理は厳重にしておりますので、ご理解をお願いします。

ただし事業と研究への参加を拒否される場合はご連絡ください。拒否の申し出のある患者さんの診療情報の登録は致しません。

ご協力よろしくお願いたします。